

ヴァイオリニストTAIRIKの戯言

〔第35回〕

弦が揺れると、僕は季節の風になる

+ 文 佐田大陸 Text by Tairik Sada +

4ヶ月半ぶりのライブ

先日、TSUKEMENで約4カ月半ぶりのライブをしました。場所は、僕の故郷長野県にある八ヶ岳高原音楽堂。

ロケーションが本場に素晴らしく、緑いっぱい景色の中、丘の上に佇み、耳を澄ませば鳥のさえずりが聴こえてくる、素敵な木造の六角形のホールです。

ソーシャルディスタンスを確保するために席数を半分に制限し、お客さんが全員入れるように、入れ替えをして1日2回の公演。ホールスタッフさんの換気、消毒も大変です。

お客さんも飛沫を飛ばしてはならないと、声を出さないように配慮してくださっていましたし、曲間で咳もありませんでした。リラククスして聴いてほしいと思いつつも、状況がそれを許しません。

久々に本番をやってみて、今まで当たり前になっていて感じ取れなかったことがたくさんありました。

音楽は人と人の間を循環しているという事。

出てきただけでいただける拍手や、公演が無事開催された喜び。反面、世界全体が辛い想いをしている現状と今後どう向き合っていくのか。入り混じ

るさまざまな気持ち。純粹に喜びだけをお客さんと共有できるのはまだまだ先になりそうです。

僕たちがやっている音楽は生命の維持に直接関係ありません。

しかし今回、音楽が大好きで、心の底から求めている人がたくさんいることを知ることができました。同業者と話をしていると、捉え方は人それぞれです。

現在を凌ぐのに精一杯な人もいれば、先々3年4年先のビジョンを描いて前に進んでいる人もいます。生き方や、人間性が浮き彫りになる時代になったな、と感じています。

こんな時、僕が尊敬する人たちをよく目を凝らして見てみると、共通することがあります。それは「人のために自分には何ができるかな」と常に自問自答していること。

どんな現状でも受け入れて、その中でたとえ小さくても自分にできることを必ず見つける。

「今、自分には何ができるかな」と思うだけで、次に自分のなすべき行動がクリアになるような気がします。

今の景色の先の世界に新しい息吹をもたらすために、希望を持って生きてい。そのためにできる最良の方法は、

一人ひとりが、まずは自分自身を大切にすること。そして一番身近な人に笑顔をもたらすことです。

音楽は微力です。でも時として人の心を救う力になると信じて進んでいきたいと思えます。

なんでも腐らずにやっていたら、必ず良いことがある！



profile

2010年3月に桐朋学園大学音楽学部大学院を修了。
2 ヴァイオリンとピアノのアンサンブル・ユニット「TSUKEMEN」のヴァイオリニストでリーダー。
2010年キングレコードからメジャーデビュー。
結成9年目にして450本以上の公演を海外や日本全国各地で開催、現在までにのべ35万人を動員している。

